



第1章 いつでもだれでも！夢を載せて宇宙へ

日本発！ みんなのミニ・ロケット誕生

稲川 貴大 Takahiro Inagawa

本誌の読者の皆さんには、宇宙開発は身近ではないかもしれませんが、私も学生のころまではほとんどなじみがありませんでしたし、それほど強い興味ももってはいませんでした。ところが草の根的に宇宙の技術に関わるうちに、その底知れない深さと面白さに関心をもつようになりました。気づけば、ロケット開発のベンチャー企業を運営するほどのドハマリ人間になってしまいました。今回の特集を機に、ロケットの魅力伝えることができたと思います。

世界の企業が注目する ロケット・ビジネス

● ロケット開発の今昔

「宇宙開発」という言葉からどのようなものを想像するでしょうか？

宇宙飛行士の宇宙遊泳でしょうか？スペース・シャトルやアポロ計画の月面着陸でしょうか。ファッション通販 ZOZO タウンの前澤社長が月旅行を予約したというニュースもありました。

それでは、宇宙開発の歴史を振り返ってみましょう。第2次世界大戦中の1940年代、ロケットはドイツにおいて、ミサイル用として実用化されました。米ソ冷戦の最中、代理戦争として、米国とソ連のどちらが先に

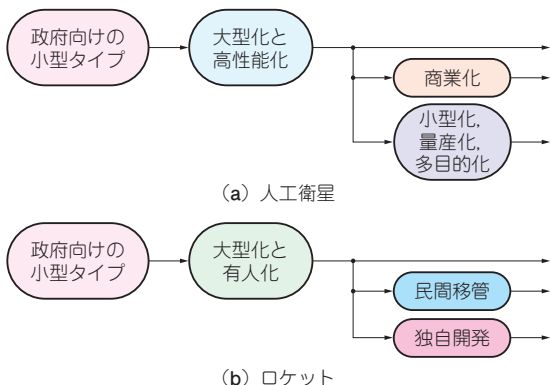


図1 宇宙開発の主体はこれまで国家だけだったがこれからは民間企業も関わっていく

宇宙に行くのか？月に行くのか？という宇宙開発競争もありました。ロケット技術は、これらの政治的出来事をきっかけに飛躍的に発展しました。不幸にも、戦争の道具として利用されてきた歴史があるのです。

冷戦時代が終わると、商業的に使われるようになり



写真1 日本で開発されたロケットH-IIA(撮影：NASA/Bill Ingalls)

気象観測衛星「ひまわり」など数多くの衛星を打ち上げている

【セミナー案内】実習・AIディープ・ラーニングの基礎と組み込み技術 [AIスピーカー・キット付き] —— Google TensorFlowとGoogle Assistantスマート・スピーカー製作を実体験

【講師】 小池 誠 氏, 12/16(日) 30,000円(税込み) <https://seminar.cqpub.co.jp/>